



第 19 刊

2015 年 12 月 31 日発行

Tsukuba for 3.11

編集長：瀧田溪吾

題字：小中大地

～目次～

双峰祭出店	… P1	リレーインタビュー	… P5
双葉ワールド・T-ACT	… P2	メンバー紹介・活動告知	… P6
写真撮影ツアー	… P3	おすすめスポット・プチ写真展	… P7
なこそ街歩き・どんぐりウォーク	… P4	お楽しみコーナー・編集後記	… P8

# 東北ほっくほっく亭 & 東北復興ギャラリー

十月十七～十八日に筑波大学にて、学園祭が行われました。  
私たち、Tsukuba for 3.11 も屋外では「東北ほっくほっく亭」、  
屋内では「東北復興ギャラ  
リー」という企画を実施し、  
二日目はあいにくの雨でしたが、多くの方にお越しいただき  
きました。



屋内では、普段の活動などを紹介するポスター展示に加え、福島、宮城、岩手のお店のお菓子やコーヒー、小物を販売しました。当日は宣伝を見て

商品を買いに来てくださった方や、偶然ふらっと立ち寄ってくださった方、メンバーの知り合い、Tsukuba for 3.11 の活動に関心をもって見に来て下さった方など、様々な人にお会いすることができてとても嬉しかったです。今年の八月には今回販売した商品のお店を実際に訪問して貴重お話を伺い、その時のエピソードも交えるなど、教室ではお客さんとメンバーの会話も弾みました！少しでも多くの人々に東北の魅力、日ごろの活動についてお伝えすることができていれば幸いです。私たち自身も改めて学んだことが多々ありました。今後もこの学祭から学んだことや、今回生まれたつながりを大切にしながら様々な情報を発信していきたいと思っております！



# ふたばワールド

2015 in ならは

2015年10月10日(土)に福島県双葉郡

ならは  
檜葉町が主催するイベントに、いつもつくば市内で行われている「しゃべり場」の皆さんと参加しました。

“ふたばワールド”は毎年双葉地方で行われているイベントで、震災後は福島県内外に避難している方々の再開や交流の場として開催されています。今回の開催地となった檜葉町は2015年9月に原発事故に伴う避難指示がようやく解除された地域でした。

当日は常磐道の事故の影響で出発が4時間半も遅れてしまいましたが、その待ち時間はいつものしゃべり場のおしゃべりの時間に成り代わりました♪ 私たちも震災後どのように過ごしていたのかなど、外部からの参



郷土料理の屋台が立ち並んでいました。

加者も交えお話しし、有意義な時間になりました。

ふたばワールドでは、柚子などを使った檜葉町をイメージした鍋が振舞われたり、双葉地方の伝統芸能や芸能人のステージが披露されたりしており、各々楽しんで過ごしました。復興を応援する団体の展示ブースも設けられており、活動について詳しいお話しを聞けて、つながりが広がりました。最後に食べた浪江焼きそばは太麺で美味しかったです！浪江町の方から、最初は不評だったが次第に人気のB級グルメになっていったというエピソードも教えてもらいました♪

イベントやしゃべり場の皆さんのお話しを通して、これからもっと町の魅力を知っていききたいです。

担当…高取美央



「ユズれない願いの木」には沢山の願い事が☆

## T-FACTシンポジウム、表彰式

T-FACTシンポジウム、表彰式が二月18日(水)に筑波大学の学生会館で行われました。

T-FACTは筑波大学のプログラムで、学生が「やってみたい」と思ったことを、仲間を集めて、企画し実行するサポートをしています。Tsukuba for 3.11 もこれに所属していました。



会場では、他の様々なT-FACTの団体のポスターが貼ってあり、私達以外にも学生で頑張っている人達がいることを知りました。教授の方、東京工業大学の方と話したところ、授業で被災者の方との交流会、ワークショップを開いたり、若者にたくさんのお話を聞いてほしい、と学生が講演を開いていることを知りました。同じような活動をしている方と交流を持つことで、お互いの意見を交換したり、いいところを吸収して、より良い活動にしていけるのではないかと思います。学ぶことは本当にたくさんあり、このように様々な団体と関わる機会を設けていただけ良かったですと思います。

今回特別賞として表彰され、ペンとノートをいただきました。私達は普段いろんな活動をしています、成果が目に見えるものではないことが多いです。正直なところ、復興支援として本当に役に立っているのか、普段活動していて不安になることもあります。そんな私達にとって、こうして誰かに賞賛され認められるのは、嬉しいことでした。周りの人に支えてもらいながら活動出来ていることを忘れずに、これからも活動していきたいです。

(担当 村本)

# 写真展取材ツアー in 東北

11月27日(金)～29日(日)、Tsukuba for 3・11  
のメンバー5人は、東北(福島県いわき市、宮城県東松島市、気仙沼市  
など)を訪問しました。目的は、来年初頭に開催予定の写真展(詳細は  
●ページ)へ向けた取材でした。

ツアー中は、取材を通して、私たちと同様に震災の復興支援活動をして  
いる高校生、大学生、社会人と幅広い世代の方々に出会いました。



ここで取材中のエピソードを紹介したいと思います。東松島市にて、  
高校2年生の女の子による震災の語り部を聞いた時のことです。多  
くのつらい経験をした彼女がなぜ大勢の人を前に震災の経験を語っ  
ているのか聞いてみました。この質問に対し、「自分のふるさとが良  
いところだということを発信したい」と答えていた姿が非常に印象  
に残りました。

また、これまで東北に行ったことがないメンバーもあり、初めての  
土地、初めて会う人々から多くの刺激を受けたようです。百聞は一  
見に如かずとはよく言いますが、やはり、自らの五感で感じたこと  
は何物にも代え難いです。今回のツアーで得た経験を写真展はもち  
ろん、今後の活動に生かしていきたいと思いました。

(担当：霜鳥太一)

## くぼたんけんニ 勿来まちあるき

ずいぶん月日も経ってしまいました・・・、十月四日（日）に開催された「勿来まちあるき くぼたんけん」に「Tsukuba for 311」からも参加・お手伝いをさせて頂きました。

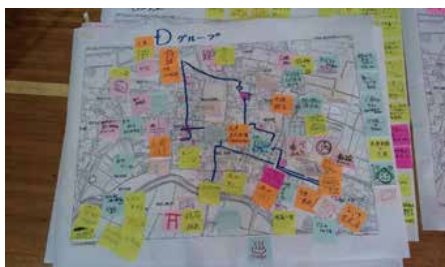
このイベントは、窪田の街に震災の公営住宅が建設予定であることをきっかけに、窪田の街にはどんなお店があるのか、どんなお寺や神社があるのか、などをこれから公営住宅に入ろうかなと思っっている方や、長く窪田に住まれている方とともに、街のいいところ・知らなかったことを再確認しようということで企画されたイベントです。

当日は、多くの参加者が集合場所である勿来公民館に集まりました。参加者を全部で四チームに分かれて、手分けして窪田を探検しました。街の各所にチェックポイントが設定されており、各チームそこを目指しながら、各々キョロキョロしながら歩いていきました。道端に生えている草花に目を向ける人もいれば、街の居酒屋さんをチェックしながら歩いている参加者の方もいたり、それぞれが思い思いに楽しんでらっしゃったようでした。一緒に歩いている私たちまで楽しくなりました。

探検後は、公民館に戻り昼食をとった後、午前中の探検でそれぞれ気づいたことをチームのごとに大きな地図にまとめて発表しあい、各チームで出した発見をみんなでも共有しました。

参加された皆さんも楽しめ、窪田の街のことも知れ、地元の方との交流もあるこのイベント、また開催されるといいなあと思えるものになりました。

文責：野中駿宏



二月三日（月）に福島県いわき市の勿来まちづくりサポートセンターが中心となって行っているドングリ里親プロジェクトの環境であるドングリ採取&ウォークに参加してきました。ドングリ里山プロジェクトとは岩間町や小浜町で採取したドングリを発芽させ育てた苗木を近隣の小学校に配布し、子供達に育ててもらい、将来的に防災緑地に生かそうという取り組みです。この日、当初の予定ではドングリ採取のお手伝いをさせて頂いていただくことになっていました。しかし、当日は雨が降ってしまい、ドングリ採取を行うことはできず、勿来復興プロジェクト事務所で地元の方々の交流会のような形になりました。

## ドングリ苗木採取&ウォーク

ここでは、豚汁やおにぎりをご馳走していただき、ドングリ採取のお手伝いもできなかったのに、至れり尽くせりで申し訳なく思った反面、地元の方や同じくお手伝いに来ていた芝浦工業大学の方々と交流することができ有意義な時間となりました。交流会が終わった後は、津波の被害があった海岸により、防波堤の建設や土地のかさ上げの状況を見るときともに、サーファーたちと一緒に波乗りをしながら帰りました。今年の11月下旬に見た時よりは防波堤の建設は明らかに進んでいました。どこにもでもあるような海岸風景にでかかど立つ防波堤の姿は何か異様な感じがしました。防災と景観と難しいところだと思います。

文責：名取暁



# つくしま リレーインタビュー

## 「福島のお母さんは 強い」

二ツ森 千尋さん

「ルピナスの会」を通して、福島県からつくば市に避難されてきたお母さん方や子供たちとつながっています。



### ―震災当時―

震災当時、二ツ森さんは筑波大学で事務の仕事をしていました。年度末ということもあり休みになることもなく、一人仕事を続け、自分の身は自分で守るという自覚のもと、日々を送っていました。ですが、時に、二ツ森さんを気にかけて訪ねてくださる先生や、ある男子学生が学生立ち入り禁止にも関わらず来てくれたそうです。

### ―自分でできること―

その後、住まいの近くにある公務員宿舎に人の出入りが始まったことや、私たち Tsukuba for 3.11 が開催した交流会に参加することを通して、避難してくる福島の方々がいます。自分でできることは何かを考えたとき、二ツ森さんには「絵本」がありました。なぜなら、当時、二ツ森さんは約一三年間、絵本の読み聞かせを行っていたからです。それから、仙台のある NPO 法人が避難所に絵本ボックスを設ける活動をしているということ、その NPO 法人とつながりを持ち、絵本を通じた支援を行いました。

### ―「ルピナスの会」の始まり―

ある時、茨城大学の先生が主催する「ママカフェ」が筑波大学で開催されることになりました。そこで、二ツ森さんはその場に関わらせてもらい、絵本の無料配布を行いました。その時、若いお母さん方の存在を知ります。若いお母さん方は他の避難者の方々と知り合いたいと考えていました。そこで、二ツ森さんは同じ小学校に通っている自分の子供と同じ小学校に、避難してきた子供たちが通っているのなら、学校側は避難者を把握していると考え、小学校の校長先生に避難者同士がつながる場をもてないかとお願いをしました。すると、その校長先生は理解を示してくださり、二〇一二年二月、授業参観前に避難者が集まる場を設けることが出来ました。その後も、月に一回、小学校でそのような場を設けるようになりました。

### ―大切なこと―

二〇一二年四月、福島県から派遣職員の方がその小学校に来ることになりました。その先生も「ルピナスの会」に関わってください。同じ福島県から来たということから、お母さん方がなかなか他の地域の人に打ち明けられないことをその先生に話せるようになったそうです。

一年目の活動はナイーブな活動だったそうです。夏ぐらいから、お母さん方が被災当時のことなどを話してくれるようになりました。それは、ある意味、夏ぐらいには打ち明けられるような関係を築くことが出来たということです。

二年目からは個別的な対応を行うようになりました。自主避難の方もいれば、帰宅困難が理由で避難された方もいます。一人一人が置かれている状況は異なります。その状況をくみ取って、二ツ森さんは連絡を取り合うなどしています。そしてその時に大切なことは、「いかにお母さん方の決断を受け入れられるか」だとおっしゃっていました。

### ―今後の展望―

今後の展望をお尋ねすると、二ツ森さんと福島のお母さん方の関係は変わらないとおっしゃっていました。会を立ち上げたときから、支援者と被支援者という関係ではなく、「ママ友」としての関係を築いており、これからもそうあり続けると話されました。

現在、福島のお母さん方は心から笑えるようになり、子供を大切に思うパワフルな方々だとも語ってくださいました。

最後にアドバイスををお願いすると、「若い人だからこそできることを無理しない程度にやってほしい」とおっしゃってくださいました。

一人一人の状況を把握し、お母さん方の気持ちを汲み取ろうとする姿勢、そして途中、涙ぐみながら話してくださった二ツ森さん。とても心優しい方である印象を受けました。

私たちは誰とどのような関係を築き上げてきたのか、これからのように築いていくのか。今を見つめ直し、「今、出来ること」に取り組んでいきたいと思えます。

担当…菊池 礼花

## ☆Tsukuba for 3.11 メンバー紹介☆



### 名取 暁くん

(生物資源学類1年)

「学園祭の企画アピールでは一皮むけました」

記者(以下き):2015年もう終わりです。しかし去年の今頃はまだ高校生!まず、なっちょりの高校生のときの話が聞きたいです。どんな高校生でしたか。

なっちょり(以下な):真面目でしたね。サッカーを頑張っていました。僕学級委員とかはやらなかったのですが、クラスで一番の権力者でした。

き:では、今頑張っていることは。

な:特にない、、、あ、勉強ですかね。追い込んでいます。

き:えらいですね!今後頑張りたいことはありますか。

な:読書です。何でも知っている人になりたいなって。色んな知識を身に着けたいです。

き:素晴らしい!じゃあ図書館に通わなきゃいけないですね。

な:いえ、僕は中古でもいいからア○ゾンで買って、自分の所有物にしてから読みたい派なんです。

き:へ～そんな人がいるんですね～(笑)

それでは、2016年の抱負を教えてください。

な:2015年は墮落の年だったので、2016年は余裕ができれば運動をしたり、山登りなど自然に触れ合ったりしたいです。

き:最後に、今後つくふおとどのように関わっていきたいか聞かせてください。

な:最下層の人間として、代表に虐げられていきます。。

き:頑張ってください!ありがとうございました!!

### 高取美央さん

(生物資源学類1年)

「高校時代は会長をやっていたので  
大学でのあだ名がかいちょーになりました」



き:高校時代頑張っていたことは何ですか。

かいちょー(以下か):生徒会長、部活、習い事など、いろいろやっていました!色々やりすぎて逆に会長とは呼ばれなかったです(笑)

き:大学でかいちょーと呼ばれるようになってよかったですね!(笑)

今頑張っていることはありますか。

か:交流会の代表など、つくふおの仕事は結構頑張っています。思ったより充実していて楽しいです!バイトも頑張っています。さつまいも大好き♡

き:かいちょーの2016年の抱負は。

か:ズバリ、ステキ女子になることです☆具体的には早寝早起きをしたいです。今は課題などのせいで夜更かしが多いので、もう少しゆとりを持って生活したいと思います。

き:早起きは三文の徳って言いますもんね。私もがんばります。

では、これまでのつくふおの活動で印象的だった出来事や言葉はありますか。

か:常総市の水害ボランティアに行ったときに聞いた、ボランティア経験の豊富な方の言葉で、「私たちの活動によって、被災者の方に嫌なことばかりじゃなかったと思ってもらえたらなあ」というものが印象に残っています。ちょっとでも被災者さんの役に立てるように寄り添ってあげたら、と思います。

き:最後に、今後つくふおにどのように関わっていきたいか教えてください。

か:自分に素直に、やりたいことはやって、言いたいことは言えるようになります!

き:すばらしいですね。ありがとうございました!

## 活動告知

### ○Tsukuba for 3.11 写真展

日程：2016年1月中旬 場所：筑波大学第三学群ラウンジ

1月と3月に「震災から5年目の東北と、その人々」をテーマに写真展を行います。今回はその第一弾です。Tsukuba for 3.11 がこれまでの活動を通してつながってきた人々にフォーカスし、東北をはじめ、全国各地でいま現在も活動している人々の姿を写真を通して伝えます。入場は無料です。ぜひお立ち寄りください。

### ○ボランティアフェスタ

日程：2016年1月17日(土) 場所：イーアスつくば

つくばで活動しているボランティアとして、Tsukuba for 3.11 も活動を紹介させていただきます。

### ○交流会

日程：2016年2月28日(日) 場所：並木交流センター

今年もTsukuba for 3.11 主催で、福島からつくばへ避難された方々との交流会を行います。笑顔が生まれるような楽しい企画を現在計画中です♪たくさんの方々のご参加をお待ちしております!

担当：高取美央

# おすすめスポット

さて、今回私がおすすめするのは、つくば市春日4丁目にある「moikka モイッカ」！  
moikka とはフィンランド語で「やあ」や「おはよう」などあいさつを意味する言葉で、白を基調とした木造りの外観と白と青空色の店内の雰囲気、どこか北欧を連想させてくれる可愛いお店です。

女子大生だけでなく、お子様連れのお母さんやスイーツ男子にも大人気のカップケーキ屋さんなんですよ☆



カップケーキの他にもチーズケーキ、スコーン、キッシュ、アップルパイ、はちみつレモンケーキなどなどなど、かわいいスイーツがたくさんあり優柔不断な私はいつもショーケースとにらめっこしています。

優しい甘さ、口あたり軽やかなクリームは絶品です♡

また、バースデーケーキなど何か特別なケーキを頼みたい場合は予約をするとデコレーションをしていただけるんです！！！！

私も、サプライズで誕生日に moikka さんのデコレーションケーキをいただいたのですが、とてもとても嬉しかったです。

日頃のおやつタイム、自分へのご褒美、大切な人に贈るケーキに moikka さんのかわいいかわいいケーキはいかがですか？



文責 オン碧

## 小写真展

担当: 瀧田

12月と3月に開催予定の写真展に先駆けて、私たちがこれまでの活動の中で撮影した写真を掲載します。



← 岩手県陸前高田市「うごく七夕祭り」  
二〇一五年八月七日撮影

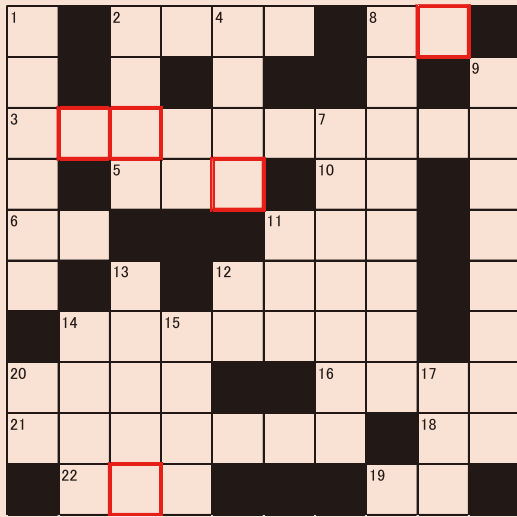
かさ上げ工事中の海沿いの地区を練り歩く、お祭りの山車。

# お楽しみコーナー



今回はクロスワードパズルです!パズルを完成させて、赤い枠に入る5つの文字を並べ替えるとある言葉になります。さあ、なんでしょう!?

☆ヒント: 12月のビックイベントといえば…



## 《たてのカギ》

1. 靴につけるもの。
2. 劇などで、台本にないセリフを言うこと。
4. 宮城県にある日本三景のひとつ。
7. 色付きで印刷すること。
8. 居間と台所を一つにした部屋。
9. カンボジアにある世界遺産。ヒンドゥー教寺院。
11. 異常や悪いところがないかしらべること。
12. 「あなた」を別の言い方で…
13. 疲れた時に必要なものは。
14. 仲の良い人に感じるもの。
15. 大きくすること。
17. パイナップルを別の言い方で…
20. 互いに顔を向かい合わせること。

## 《よこの鍵》

3. 平成 27 年開業した金沢と東京をつなぐ新幹線。
5. 仏壇が置いてある部屋。
6. 料理の基本といわれる、鰹節や煮干しからとるもの。
8. 木の上をすばしっこく移動する小さな動物。
10. 部屋の床に敷くもので、全体ではなく部分的に使うもの。
11. 誕生日に食べる甘いもの。
12. すべて一樣なこと。等しいこと。
14. 青森県にある世界遺産。原生的なブナ林。
16. 髪をきること。
18. 繊維からつくる細くて長いもの。
19. 紙に文字を書く際に使うもの。書いた文字は消しゴムで消せません!
20. パレーボールのスパイクを別の言い方で…



# 編集後記

こんにちは!  
つくしま12月号を読んでいただき、ありがとうございます!

早いもので、2015年ももう終わりです。今年もいろいろありましたね。北陸新幹線の開通、仙台海の杜水族館の開業、国産ジェット機の初飛行、そして、甚大な被害をもたらした関東・東北豪雨…

いい出来事、わるい出来事それぞれですが、どれも今後の日本の姿、あり方を変化させるものだったのではないでしょうか。

2015年は、阪神淡路大震災から20年、第二次世界大戦終戦から70年という、大きな節目の年でした。

世界は常に移り変わっていくものではありませんが、脈々と受け継いできているものがあることも事実です。

いいことから得た喜び、わるいことから得た教訓をしっかりと胸に刻みつけ、新しい年を迎えたいですね!

2015年もありがとうございました!

2016年もどうぞよろしく願いいたします!

文責: 瀧田溪吾

